

鬼怒川・川治温泉観光情報センターオープン

観光客や市民の皆さんへ鬼怒川・川治温泉の観光情報を提供する拠点施設として、鬼怒川・川治温泉観光情報センターを4月25日(火)、鬼怒川温泉駅前にオープンしました。

観光情報センターは地域再生計画に基づき、鬼怒川温泉駅前整備事業の一環として建設されました。センターの管理運営は特定非営利活動法人(NPO法人)鬼怒川・川治温泉観光協会が指定管理者として行います(指定期間は平成21年3月31日まで)。

藤原総合文化会館の1階部分を改修して設置したセンター内には、情報収集コーナーと休憩



入り口に東京芸大の池田政治教授の監修による、かわいらしいのれんをかけてお待ちしています。

コーナーがあります。

情報収集コーナーでは受付カウンターで観光協会のスタッフがお客様のニーズに合わせた情報提供や案内を行います。また、窓際にはパンフレットなどをゆつくりと読むためのテーブルを用意しました。パソコンも2台設置し、誰でも気軽にインターネットで観光情報を検索できます。大画面テレビで映像による観光案内も行っています。

休憩コーナーではセルフサービスでお茶などを飲むことができます。

センターは年中無休で、午前8時30分から午後6時まで(12月から2月は午後5時30分まで)営業していますので、気軽にお立ち寄りください。

くりいしがえ 栗石返し



約370年続く伝統行事の栗石返しが、5月3日(水)に日光東照宮と日光山輪王寺大猷院^{たいゆういん}の境内で行われました。

栗石返しは、東照宮春季例大祭の前に行う清掃行事です。早朝から集まった約3千人の市民が一つ一つ石を裏返し、間に入った杉の葉や小枝などのごみを取り除きました。集まったごみは2トントラック5台分にもなりました。

消防機動特別救助隊結成



こうした状況を受け、日光市消防本部では4月24日(月)、機動特別救助隊を結成しました。

特別救助隊には、今市・日光・藤原の各消防署から6名ずつ、計18名の精鋭が選ばれました。有事の際には、署の管轄にかかわらず、状況に応じて出動できる体制をとることで機動力を高め、迅速な救助活動を展開します。

隊員たちは今後一年間、特別訓練を行い、救助に必要とされる高度な技術と知識の習得に努めます。

合併により、県の約4分の1という広大な面積を有する日光市。市内では火災や交通事故、

のほか、山岳での遭難事故、ダムや湖、河川での水難事故などさまざまな状況下で発生する事故や災害に対して、迅速な救助活動が必要とされています。

